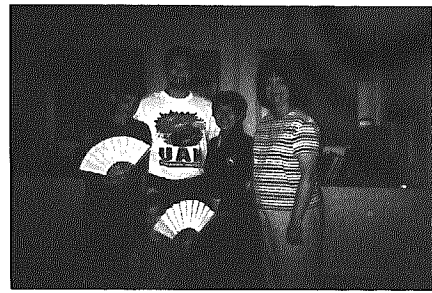


ばらしい人々に出会えたことです。他の県から来た人たちは、とてもユニークでいつもみんなで大声をあげて笑っていました。つらいときも、楽しいときもいつもしょいしょにいた仲間たちだったので、本当に良い仲間ができてうれしかったです。

また、アメリカでお世話をしてくれたバット・バリンソンさんは、いつも明るく元気で、私たちが落ちこんでいるときには、励ましてくれました。本当に楽しい日々がすぎました。そして二つ目は、ホストファミリーとすごした三日間です。これは私にとって忘れられないものです。

ホームステイには二人一組でいきました。そしてホストファミリーは、お父さんとお母さん、十四才の男の子と二才の女の子の四大家族でした。お父さんもお母さんもとてもやさしそかったです。男の子は背が高く、やさしい感じでした。女の子はちょっとぴりはずかしそうでした。でも、髪の毛は金色のロングヘアで、ちょっとぴりたてロールなところがとってもかわいい子でした。最初はとてもきんちようして、なかなか会話がはずみませんでした。また、ホームステイ一日目の



ホームステイ先にて(右から2番目が寺井さん)

夜、男の子に「近所の友達の家へ行く」とさそわれました。そのとき私たちは、きつとその友達の家でお菓子を食べたり、しゃべったりするのだから、思っていました。しかし、次に男の子から言われた言葉は、「聖書の勉強」でした。そのときはちょっとあせったけど、そんなに長い時間はいないだろうと思ひ、油断してしまいました。聖書を教えてくれた家族の人は、とても快くむかえてくれました。そこにはだいたい私たちと同じ歳くらいの人たちが四人いました。そしてさつそく聖書の勉強が始まりました。

初めのほうは、とうぜん英語で何を読んでいるのかまったく分からなかったけど、自分なりにがんばって聞いていました。でも、やっぱりだめで、だんだんと眠くなってしまいました。そんな調子で一時間、二時間と過ぎていきました。そんなとき、聖書を教えていたお父さんが「少し休憩しよう」と言ってくれました。私はそのとたんにホッとしました。

しばらくしたら、そのお父さんが話しかけてきてくれました。私といっしょにホームステイした友達もあまり英語がとくいではなく、話しかけてくれたことに答えることができなかったってしまいました。でもそのお父さんは、もう一度、ゆっくり分りやすく言ってくれました。そして、私たちがやると答えると笑顔で笑いかけてくれました。そのときは本当にうれしかったです。

三日目は、朝と夕方の二回、教会へ行きました。教会へ行くのは初めてだったので、とても良い体験ができて、本当に良かったです。この日のお昼にお母さんがパンを焼いてくれました。私は、今まで食べた中で一番おいしいと思いました。

この最後の夜に、私は着物を着て民謡を披露しました。友達と家族のみんなが、「とても上手だった。」とほめてくれました。そのときは、とてもうれしかったです。今まで練習してきたかいたがあつたと思ひました。そして友達は、書道で家族の名前を書いていました。みんなとてもうれしそうでした。また、家族の名前を日本語に訳し、意味を調べていました。その意味におどろいたり、笑ったりしていました。

二日目は、「買い物に行こう」とさそってくれました。お父さんとお母さんは私たちに気をつけてくれて、たくさんのお店へつれていってくれました。とあるお店で、ちがうところにホームステイに言った友達と会いました。それを見たお母さんが「行ってきてもいいよ。」と言ってくれました。友達と会えたこともうれしかったけど、私はお母さんのそんなやさしさ

がとてもうれしかったです。そこで会った友達は、「家族の人がいろいろな物を買ってくれたの。すつこく親切だね。」と言っていました。私はそれを聞いて、物を買ってくれるのも親切かもしれないけど、私は友達と会って、「しゃべってきいていいよ」と言ってくれることや、いろんなお店へつれていってくれる方が、よほど親切だと私は思いました。

今回の研修はとてすばらしい思い出になりました。この経験をこれからの私の人生に役立てていきたいです。そしてまたいつか、必ずアメリカへ行きたいです。研修に行かせてくださった町長さんをはじめとする町の方々、そしてなによりも両親に心から感謝します。ありがとうございました。

# 黒崎町史のひろば

今回は、黒崎町史・現代の教育文化分野の執筆と担当された青木昭平氏の「町史のほれ話」を紹介します

## 会津八一と幻の文化講演会

私は今まで妻ももらわず、研究一すじにやってきた。今日ここでその話をしようと思っていたが、政治家やお寺の説教を聞くように、あぐらをかいたり、煙草をのんでいる者がいるのは不愉快だと、壇上からいったと思うとさつそくステージから下りて帰ろうとする会津八一の態度に佐藤村長や武田助役、会津八一に同行してきた亀倉蒲舟など主催者側は仰天する。ともに、なだめようとした。しかし、会津八一は、なだめようとした人々の手を振りきるようにして会場を去り、外にまたせてあったタクシーに乗って帰ってしまったのである。

昭和二十七年三月一日(土)午後、黒崎中学校における講演会でのできごとであった。

期日も三月一日(土)と決定し、役場では村内や隣接の町村にも案内をだし、中学校の講堂を会場として用意したのであった。当日の午後、会津八一は亀倉蒲舟と一緒にタクシーで中学校にやってきた。さて、話をしようとする壇上に立つて聴衆に目を向けると、背広姿でネクタイをきちんと締めた中年の男性がアグラをかきなから煙草をのんでいる様子が眼に映った。また、ほかにも喫煙していた者がいたのを見て、怒り声を会場に響かせると、壇上からサツサと下りて帰ろうとしたので主催者側だけでなく一同啞然として見送るのみで、折角郷土の碩学を迎えての講演会はお流れとなった。

後日談として――。講演会中止後、聴衆一同は、講演を聞くには講師に敬意を払って聴衆としてのマナーを守ることを大切さを教えられたとして、改めて感銘を受けた話が「講演会」として町に伝えられている。なお、会津八一は、翌々三月

「黒崎町史」の「通史編」と「自由民権編」には、山際七司先生の活躍が大きく紹介されています。各戸に配布された案内ちらしをみてぜひとも、ご購入注文をおねがいます。

